日本地球惑星科学連合2019年大会における気象学会主催セッションのお知らせ

講演企画委員会

日本気象学会では，2010年度より日本地球惑星科学連合大会（連合大会と略す）において，会員からの提案に基づき，「最新の大気科学」という名称で主催セッションを毎年開催しております（田中ほか 2010；竹見ほか 2011；中村 2012；五十嵐 2013；小池ほか 2015；沖ほか 2015；米山・竹見 2017；中野ほか 2018）．2019年度の連合大会（2019年 5 月26～30日，千葉県千葉市美浜区　幕張メッセ国際会議場）では，以下のセッションを主催セッションとすることが決まりましたので，お知らせいたします（趣旨説明は，気象学会セッション募集締切時点（ 9 月28日）でのものです）．会員の皆様の積極的な発表および参加をお待ちいたします．

テーマ：ダスト

趣旨：鉱物性ダストは強風により，地表面から発生し，地球内を長距離輸送する．その過程で，雲の形成や太陽放射の吸収・散乱により気象・気候変化をもたらす．また，海洋に沈着すると，植物プランクトンに栄養塩を供給し光合成を促進させ，雪氷に沈着するとアルベドの変化をもたらす．日本など東アジア地域では，黄砂現象として知られている．この黄砂現象を理解するためには，幅広い分野の融合が必要である．

発生過程では，乾燥域の地表面条件によってダスト発生量が大きく変化し，その条件を決めるためには，土壌や地形，植生，降水，砂漠，土壌劣化といった分野を扱う．輸送過程では，気象や大気エアロゾル，放射といった分野を扱う．沈着過程では，海洋，雪氷，人や家畜への健康といった分野を扱う．乾燥化や植生の変化は，国の政策や家畜の管理，人口増加といった社会科学的側面も有する．また，ダストや砂丘は地球だけでなく，火星・土星などの他の惑星にも共通する現象である．このように，一つの分野だけでは，ダスト現象を理解することはできず，本セッションを通して，多くの分野の研究者が議論し，情報共有を行うことが重要であり，研究者の交流を進める．

代表コンビーナー：石塚正秀（香川大学）
コンビーナー：黒崎泰典（鳥取大学），
関山　剛（気象研究所）

参　考　文　献

五十嵐康人，2013：日本地球惑星科学連合2013年大会セッション「最新の大気科学：福島原発事故放射能の大気・陸圏輸送，沈着問題」の報告．天気，**60**，975-976．

小池　真，新野　宏，近藤　豊，佐藤正樹，2015：日本地球惑星科学連合2014年大会「最新の大気科学：航空機による大気科学・地球観測研究の展開」セッションの報告．天気，**62**，55-56．

中村　尚，2012：日本地球惑星科学連合2012年大会国際セッション「最新の大気科学：中高緯度大気海洋相互作用と気候」の開催報告．天気，**59**，926．

中野満寿男，和田章義，金田幸恵，伊藤耕介，2018：日本地球惑星科学連合2018年大会「最新の大気科学：台風研究の新展開過去・現在・未来」セッションの報告．天気，**65**，596．

沖　理子，早坂忠裕，佐藤　薫，佐藤正樹，高橋暢宏，本多嘉明，奈佐原顕郎，中島　孝，沖　大幹，横田達也，高薮　縁，村上　浩，岡本　創，岡本幸三，2015：日本地球惑星科学連合2015年大会「最新の大気科学：衛星による地球環境観測」セッションの報告．天気，**62**，723-724．

竹見哲也，新野　宏，三上正男，2011：日本地球惑星科学連合2011年大会「最新の大気科学：大気・海洋・地球環境における乱流の数値解析」セッションの報告．天気，**58**，721-723．

田中　博，山崎孝治，山内　恭，2010：地球惑星連合2010年大会「最新の大気科学」北極圏の気候変動セッション報告．天気，**57**，517-518．

米山邦夫，竹見哲也，2017：日本地球惑星科学連合―米国地球物理学連合合同2017年大会「最新の大気科学：海大陸研究強化年―YMC」セッションの報告．天気，**64**，744．